

2021 World Rowing Beach Sprint Finals & Coastal Championships 参加報告書

WR 審判員 (1782、東京都ボート協会所属) 山崎佳奈子

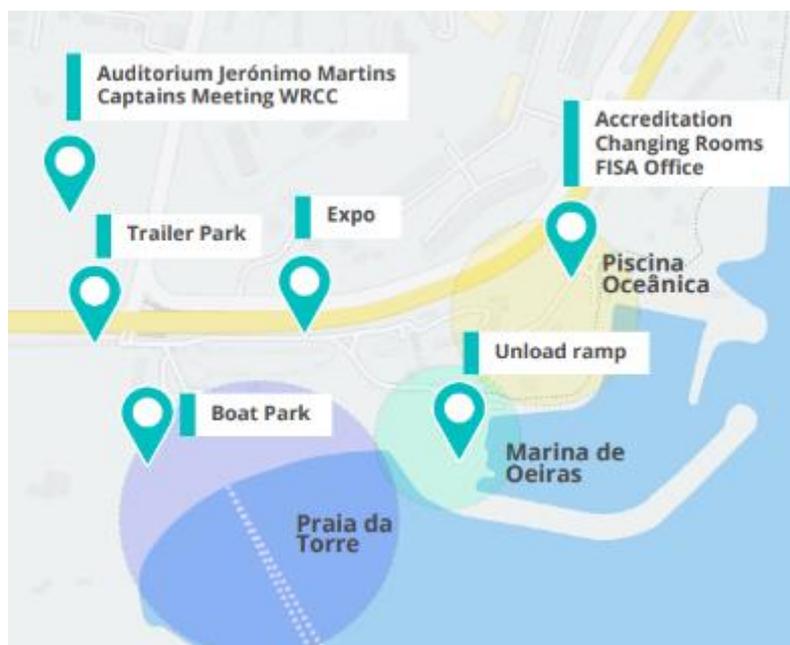
1. はじめに

ポルトガル、オエイラスにて開催された世界ビーチスプリント選手権及び世界コースタル選手権に ITO として参加いたしましたので、ご報告いたします。

2. 大会概要

(1) 開催期日 世界ビーチスプリント選手権 2021年9月24日(金)～9月26日(日)
世界コースタル選手権 2021年9月30日(木)～10月2日(土)

(2) 会 場 Praia da Torre (Oeiras, Portugal)

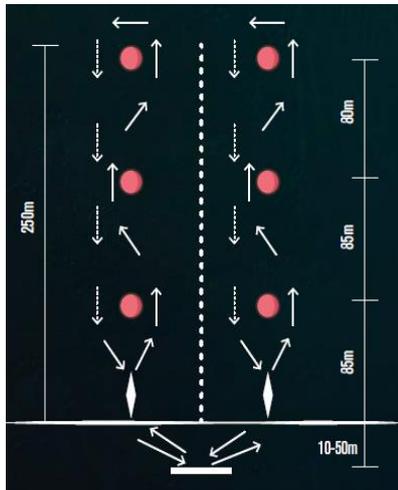


会場位置



大会イメージ (WR Website より引用)

- (3) コース ビーチスプリント選手権 250m×2 (スラロームアウト、ストレートイン)
 コースタル選手権 予選・順位決定 4km (TP1>TP2>TP3>TP4>TP5>TP6>TP7)
 決勝 6km (TP1>TP2>TP3>TP4>TP5>TP6>TP7>TP8)



コースレイアウト (ビーチスプリント)



コースレイアウト (コースタル)

(4) 開催種目

<ビーチスプリント>

Men (M): CM1x, CJM1x*, CJM2x*

Women (W): CW1x, CJW1x*, CJW2x*

Mixed (Mix): CMix2x, CJMix2x*, CMix4X+*

*は 2021 年より追加されたジュニア種目

<コースタル>

Men (M): CM1x, CM2x, CM4x+

Women (W): CW1x, CW2x, CW4x+

Mixed (Mix): CMix2x

- (5) 参加国 37ヶ国 (波線はビーチスプリントのみ、下線はコースタルとビーチスプリント参加)

Algeria, Austria, Belgium, Brazil, Canada, Cabo Verde, Czech Republic, Croatia, Denmark, Egypt,
Spain, Finland, France, Great Britain, Germany, Greece, Hungary, India, Italy, Ireland, Japan, Saudi
Arabia, Lithuania, Monaco, The Netherlands, Norway, New Zealand, Poland, Portugal, Russia,
Switzerland, Sweden, Tunisia, United Arab Emirates, Ukraine, United States of America

(6) Jury Members (ITO)

President of Jury	<u>MOULY Jerome</u>	WR 1484
Members	<u>STEININGER Birgit</u>	AUT 1430
下線はビーチスプリント	<u>REZNICKOVA Emilie</u>	CZE 1717
から参加	<u>GANIER Laurent</u>	FRA 1483
	<u>MONTAGNINI Matteo</u>	ITA 1759
	<u>YAMAZAKI Kanako</u>	JPN 1782
	<u>ALUPEI Dorin1</u>	ROU 1465
	<u>DAVIDOW Wayne</u>	RSA 1646
	<u>SHARMA Rupesh</u>	SGP 1762
	<u>GOLOB Borut</u>	SLO 1632
	<u>STOFER Christian</u>	LTU 1517
	<u>NORDH Kenth</u>	SWE 1619
	<u>YILMAZTUERK Halil</u>	PUR 1269
	<u>MONES CAMARA Alfredo Martin</u>	URU 1757
	<u>MC KENNA John</u>	USA 1758
	<u>LORIENTE PERETZ Asuncion</u>	ESP 1464



ビーチスプリント ITO/NTO メンバー



コースタル ITO メンバー

3. 審判部署配置とレース手順（ビーチスプリント）

	ITO	NTO	Duty
Control Commission (監視)	1	2	装備チェック、選手 ID 確認、出艇、帰艇確認 舵手計量、艇計量
Starter/Judge at the Finish (発艇/判定)	1	2	スターター、計時システム連携、 ペナルティ集計、着順判定
Judge at the Start/ Race Umpire (線審/主審)	1	0	スタート時の選手の監視 (フォルススタート) レーンアンパイヤとの連携
Lane Umpire (レーン主審)	2	0	レーンの監視、スタート時のフォルススタート監視、 ペナルティの報告
Turning Mark Umpire	1	0	ターニングポイント審判 ペナルティの報告

本大会の使用艇は Philippi 社のものを使用していた。一部のクルーを除き、オールもレンタルオールで白いオールだった。

(1) スタート

GPS は無く、スタート/ゴール位置にボタンがあり、それを押下することによって記録されるタイ

ブだった。記録システムはスタートブザーが鳴らない、時計が作動しないなどトラブルがあった。



スタート手順は以下の通り

- ① 3分前 スタートラインの後ろにランナーが揃う
- ② 2分45秒前 アナウンサーがクルーの紹介をする
- ③ 1分前 アナウンサーが「ONE MINUTE, PUT THE BOATS ON THE WATER」
とアナウンスし、クルーはボートを水面に浮かべる
- ④ 音楽が徐々に小さくなり、スターターが「GET READY」と発する
- ⑤ 「ATTENTION」の令の後赤旗を掲げ、振り下ろすと同時にフーターが長音で鳴る
- ⑥ ランナーがボートまで走り、乗艇し漕ぎだす。

記録システムのブザー音が一瞬遅れるため、スタートの瞬間はブザーが鳴る時ではなく、赤旗が振り下ろされた瞬間であると事前にクルーキャプテンミーティングで周知されている。

スターターはフィニッシュ判定も兼ねる。スタートチーム＝フィニッシュチームはペナルティの集計をし、フィニッシュタイムに加算する。

(2) 線審

ランナーがスタートラインから出ていないかを確認し、レーンアンパイアの白旗を確認したら白旗を掲げる。ランナーがスタート号令前に飛び出した場合、またはクルーがスタート号令前に船に乗り込んだりした場合は「フォルススタート」なので赤旗を振り、フーターを短音で鳴らす。

(3) レーン審判

本レースはレーンが2つのため、審判も2名配置された。レーン審判は陸上の高い位置からボートが各レーンの正しい位置にボートハンドラー（ボート保持者）によって保持されていることを確認し、白旗を掲げる。

もしスタート号令前にクルーが乗り込んだ場合、フォルススタートとして赤旗を振りスタートを止める。

レース中は3つのブイを決められた方向を回っているかレースを注視し、間違えたクルーのペナルティをフィニッシュチームに無線で報告する。

タイムペナルティは以下の通り

- 1つ目のブイをミスした場合 30秒
- 2つ目のブイをミスした場合 30秒
- 3つ目のブイをミスした場合 60秒
- 最後の旗の外側を通らなかった場合 10秒



(4) ターニングマーク審判

3つ目のブイの外側でクルーがちゃんとブイを回るかどうかを注視する。クルーが回った場合は白旗を掲げる。ミスした場合はフィニッシュチームにその旨を伝える。

(5) フィニッシュ

クルーが決められたブイをスラロームで回り、ストレートで戻って砂浜に着くとランナーが船から飛び出しフィニッシュラインのボタンをめがけて走る。砂浜には旗が立っており、ランナーはその外側を走らなければならない。



フィニッシュのボタンを押した時点でレース終了となる。

4. 感想と課題（ビーチスプリント）

今回ビーチスプリントは初審判参加だったが、新しい種目のため「エンジョイローイング」的な要素が多い種目だと感じた。例えばクルーのユニフォームには個人名（苗字）と国コード（JPN など）が入っていないなければならないが、国名のみがおり、マスキングテープなどで修正せず注意で出漕していた。また、途中で落水したクルーがいたが、救助された後再乗艇し漕ぎ続けた結果、タイムが認められたなど、厳格ではなく、普及的な側面のある種目なのであろう。

スタートと同時に砂浜を駆け出し、艇に飛び乗り、往復 500m を漕いでから艇から飛び降り、フィニッシュのボタンめがけて飛び込む姿はさながらライフセーバーのビーチフラッグスを見ている様で、全レースが見渡せるビーチスプリントは白熱するエンターテイメント要素の多いレースであると感じた。

今年のレースから初めてビーチスプリントにジュニア種目が設定され、日本から参加した女子高校生クルーが銀メダルを獲得した。このクルーは初日のタイムトライアルで、カメラ艇との接触があり、単漕の再レースとなったクルーだった。この再レースのタイムによりタイムトライアル 2 位となり、準決勝に進出、結果準優勝したが、審判ミーティングではカメラ艇に限らず審判艇、全ての艇のドライバーについて決してクルーを妨げることをしないよう注意したと報告があった。



5. 審判部署配置とレース手順 (コースタル)

	ITO	NTO	Duty
Starter (発艇)	1	2	スターター、スタートブザー、ボール落下
Judge at the Start (線審)	2	0	スタート時の選手の監視 (フォルススタート)
Umpire (主審)	2	2	レース追航
Turning Mark Umpire (Buoy 1 ~7)	5	7	ターニングポイント審判 ペナルティの報告
Finish (判定)	1	1	着順判定
Time Penalty Umpire	1	1	タイムペナルティの集計、選手のペナルティ管理
Control Commission (監視)	3	4	装備チェック、選手 ID 確認、出艇、帰艇確認 GPS ユニット配布、回収、舵手計量、艇計量

(1) スタート

1 日目、2 日目は水上スタート (水上に艇を浮かべた状態でスタートラインに並び、スタートする)、最終日は陸上スタート (浜辺に艇を保持し、スタート号令と共にクルーが飛び乗り漕ぎだす) であった。スタート手順は以下の通り



Time	Visual signals	Audio signals
-3 minutes	 3 balls (red with white cross)	 3 short blasts of hooter
-2 minutes	 2 balls (red with white cross)	 2 short blasts of hooter
-1 minutes	 1 balls (red with white cross)	 1 short blasts of hooter
START	 drops	 LONG

1 日目、2 日目は線審がアシスタントスターターとして、ボールの上げ下げを担当した。

(2) 線審

線審は水上スタート時はレースに追航しない主審が線審を務め、陸上スタートの時は浜辺に並んだ 20 艇のボートを 2 名の線審がフォルススタートがないか注視する。



水上スタート



陸上スタート

フォルススタートは水上と陸上で以下のフォルススタートがある。

(水上の場合)

個別のフォルススタート ⇒ スタートした後、フォルススタートをしたクルーにタイムペナルティが与えられる。

マス・フォルススタート ⇒ クルー判別できない数のフォルススタート
赤旗でレースを止め、再スタートする。

(陸上の場合)

スタート号令前に艇に乗り込んだクルーがいれば、赤旗でレースを止め、再スタートする。

(3) 主審

2艇の主審艇が交互にレースにつく。水上スタート時はレースにつかない審判艇がスタートラインに位置し、線審を務めた。

(4) ターニングマーク審判

1～8のターニングポイントでクルーがターニングポイントを回っているかを注視する。回らなかったクルーは除外となる。今レースでは1, 2, 3, 4, 7、決勝レースは1, 2, 3, 4, 6にITOが配置された。

(5) フィニッシュ

本大会はビーチフィニッシュのため、漕ぎ終えたクルーのランナーが艇から飛び降り、フィニッシュラインめがけて走る。ブザーは無く、足に付けられたGPSによってタイムが記録される。

(6) ペナルティアンパイア

本大会はペナルティループ（ペナルティブイを周るペナルティ）ではなく、ペナルティボックス（ペナルティエリアで定められた秒数を待機してからフィニッシュする）が採用された。



各部署から報告されたペナルティはペナルティボックスにて集計され、最終ブイのアンパイヤと主審はクルーにペナルティがある事を伝え、ランナーはフィニッシュラインの手前にあるペナルティボックスで与えられたペナルティを消化する。

(7) 監視

ビーチスプリントと違う点は GPS の配布・回収がある事と、ビーチスプリントでは必須ではない、ライフジャケットと牽引ロープの確認である。ID カードに写真が無いため、クルーの確認はパスポートを使用した。ポートステッカーはほとんどの国が正確に貼っていた。



GPS ユニット (ベルトで足につけるタイプ)

6. 感想と課題 (コースタル)

世界コースタルは 2019 年に香港で開催された際に NTO 参加して以来 2 回目だったが、ビーチスタート・ビーチフィニッシュは初めてであった。

20 艇が一斉にスタートし、岸に戻ってくると同時にランナーが飛び出しフィニッシュラインを目指す。残りのクルーとポートハンドラー、ボランティアがすぐに艇を移動させる。移動させなければ次の艇が突っ込んでくるからである。スタート位置のすぐ隣がフィニッシュのため、戻ってきた 20 艇は砂浜にあげられるとすぐに次のレースのスタートの邪魔にならないよう、片付ける必要がある。このポートの移動指示もコースタル委員会が行っていた。

香港の世界コースタルでもプロテスト (提訴) は多かったが、やはり今回のポルトガルでも多くのプロテストがあり、スタート時のフォルススタートに関するものが多かったようだった。

あるクルーは自分がフォルススタートと言われ、2 分間のペナルティを受けたが、すぐ隣の国のクルーの方が出ていたと訴え、また別のクルーはいくつかのクルーがスタートラインを出ていたのにフォルススタートにせずそのままスタートしたのは不公平ではないかとの訴えもあった。

いずれも不服審査委員会 (Board of Jury) によるビデオチェックなどの後、クルーに結論が伝えられた。プロテストの全てを聞いていたわけではないので、その他のプロテストもあったと思うが、6 艇のクルーがスタートラインから数秒~1 分差程度でフィニッシュし白旗が上がる通常のレースと違い、クルーから主審にすぐオブジェクションできるレースではないため、どうしてもプロテストが多くなる大会である。

7. コロナ禍での大会参加

2020 年開催予定だった WR 大会は 2021 年に延期され、本大会も 1 年延期後の大会であった。

出国時は外国の日本入国制限が強化され、ポルトガルは原則ビザの無い入国は認められなかった。大会開催に関しての審判招集状とポルトガル協会の招待状 (いずれも英文) を見せて、経由地のドイツ・フランクフルトも含め、もし入国できなかった場合自己責任とする誓約書にも署名をしての出国となったが、フ

ランクフルトでもポルトガルでも 72 時間以内の PCR 検査証明書のみで入国することができた。ポルトガルでは東京オリンピック・パラリンピックほどの厳しいバブルは無く、マスクを着用すること、大人数の所には行かないこと、ソーシャルディスタンスを守ること、この3つを厳守することで、特に外出は制限されなかった。オリパラ並みの外出制限を覚悟していただけに意外であった。帰国時も 72 時間以内の PCR 検査陰性証明が必要となるが、これが日本のフォーマットに準じていなかったことがわかり、WR ドクターに日本のフォーマットで陰性証明を作成してもらうことにより、無事日本入国することができた。



Quarantine Station, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japanese Government

COVID-19 に関する検査証明
Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日
Date of issue 3 Oct 2021

氏名 Kanako Yamazaki パスポート番号 TR3040667
Name Kanako Yamazaki Passport No. TR3040667
国籍 Japanese 生年月日 21/03/1964 性別 Female
Nationality Japanese Date of Birth 21/03/1964 Sex Female

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。よって、この証明を交付する。
This is to certify the following results which have been confirmed by testing for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

採取検体 Sample (下記いずれかをチェック /Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	①結果判明日 Test Result Date ②検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
<input checked="" type="checkbox"/> 鼻咽喉ぬぐい液 Nasopharyngeal Swab	<input checked="" type="checkbox"/> 核酸増幅検査 (RT-PCR 法) Nucleic acid amplification test (RT-PCR)	<input checked="" type="checkbox"/> 陰性 Negative	① Date (yyyy / mm / dd) 2021 / 10 / 02	
<input type="checkbox"/> 唾液 Saliva	<input type="checkbox"/> 核酸増幅検査 (LAMP 法) Nucleic acid amplification test (LAMP)	<input type="checkbox"/> 陽性 Positive → 入国不可 No entry into Japan	② Date (yyyy / mm / dd) Time AM/PM 11 : 00	
<input type="checkbox"/> 鼻咽喉ぬぐい液と咽喉 ぬぐい液の混合 Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	<input type="checkbox"/> 核酸増幅検査 (TMA 法) Nucleic acid amplification test (TMA) <input type="checkbox"/> 核酸増幅検査 (TRC 法) Nucleic acid amplification test (TRC)			

↑ ポルトガルの陰性証明

検査方法が記載されていないため、認められない。

日本の陰性証明 ⇒

厚労省所定フォーマット。検査方法が記載されている。

9 月 30 日までは、日本に帰国した場合 3 日間のホテル隔離の後 14 日間の自宅待機が必要だったが、10 月 1 日から規制が緩和され、ワクチン接種証明コピーの提出によってホテルの 3 日間隔離が免除され、14 日間の自宅待機も 10 日目に自主的に受けた PCR 検査の陰性証明を提出することにより、自宅待機は解除されることとなり、私の待機期間は 10 月 15 日に終了した。

8. 最後に

コロナ禍での大会参加、2 週間の大会参加のみではなく、その後 2 週間の自宅待機も含めると約 1 ヶ月出勤することが出来ませんでした。在宅勤務が浸透してきたとはいえ、今回の大会参加と帰国後の在宅勤務を認めてくれた勤務先（東京都ボート協会）と送り出してくれた家族に心から感謝します。コロナ禍の不自由を差し引いてもなお大きな経験を得ることができ、とても貴重な 2 週間でした。審判派遣して下さった日本ボート協会に深く感謝申し上げます。

以上

